



プレスリリース

アニマルプラネット、エコテロリストと連携

ワシントン、D.C.、2008年10月29日 鯨類捕獲調査実施機関の(財)日本鯨類研究所は、その調査船団が南極海において違法な攻撃を受け続けていることに関連し、本日、エコテロリズムに関与したとして米国のケーブルテレビ・衛星放送向けテレビ放送局のアニマルプラネット(Animal Planet)を非難した。(関連映像はこちらで閲覧できる: <http://www.icrwhale.org/index.htm>)

ディスカバリー・コミュニケーションズ(Discovery Communications)社が所有しているアニマルプラネットは「鯨戦争(Whale Wars)」という新規シリーズ番組制作を依頼するためテネシー州(米国)所在のRIVR Productions映画制作会社(RIVR)と契約を締結した。この「鯨戦争」シリーズ番組は数週間後全米で放送される予定。RIVRの撮影班は過激派動物愛護団体シーシェパード・コンサベーション協会が所有する船舶に乗船し、2008年1月～3月の間、日本の鯨類捕獲調査船団を対象にシーシェパード所有船及び乗組員によって公海上で繰り返された犯罪的襲撃に加わった。2008年8月、日本の警視庁公安部が海洋航行不法行為防止条約(国際海事機関のSUA条約)に違反したとして、シーシェパード活動家の男3人の逮捕状を請求している。

陸上で活動するエコテロ団体と違って、シーシェパードはいずれの国の権限も及ばない公海上での活動中の船舶を攻撃することによって起訴されるのを避ける手口を使う。2008年3月日本鯨類研究所の調査船への襲撃の真っ最中、米国カリフォルニア連邦裁判所が一人のシーシェパードと地球解放戦線(Earth Liberation Front、ELF)に所属していた元活動家に対し、放火火災を起こしうる有害装置の作り方を人々に教え込んでいたとして1年間の監禁判決を下していた。また、シーシェパード指導者のポール・ワトソン著作のエコ・ゲリラ活動に関するガイドブックでは「敵」に対して武器としての火の使い方を説明する章が含まれている。

日本鯨類研究所の調査船への犯罪的暴力行為がエスカレートしたことはシーシェパード襲撃船へのアニマルプラネットスタッフの乗船及びその撮影行為と同時に起きている。アニマルプラネット自身が今年の反捕鯨キャンペーンは「特に多忙だった」と明言している(アニマルプラネットの2008年7月19日付プレスリリース)。これらの暴力行為としては調査船のスクリューを不能にするための鋼鉄ケーブル投げ込み、酪酸瓶や発煙弾の投入、衝突を試みるなどが含まれる。また、攻撃の対象船舶の船体を壊すためにシーシェパードは7フィートの鋼鉄製刃を船体に溶接している。

アニマルプラネットはその経営陣、下請けの映画制作会社およびエコテロリストとの間で、テレビ番組向けにセンセーショナルな映像を作り出す目的で違法行為を犯す共謀を防ぐための内部システムや安全措置を持っていなかった。

日本鯨類研究所は調査船団および調査員に対する激しい攻撃にアニマルプラネットが関与したことに加え、このシリーズ番組の放送はエコテロリズムを美化すると同時に将来においての調査船団への暴力的攻撃の可能性を高めることになると懸念している。

日本鯨類研究所の森本稔理事長は次のように述べた:「エコテロをサポートし、それを美化する番組を制作することで大手のテレビネットワークがここまで墮したとは、全く理解しがたい。南極海におけるシーシェパードの違法行為は船上でのアニマルプラネット撮影班の存在によって一層煽られたのではないか。アニマルプラネットは、一段と過激な暴力を誘発し、国際的な犯罪組織のシーシェパードを手助けしているという責任を免れない」。

お問合せ:

米国:

Gavin Carter, Butterfield Carter and Associates +1 703 619 1504 (英語のみ)

日本:

ガブリエル ゴメス: 03 3536 6521